

起業家支援財団 事務局通信 NO.7



休日一日使って行った、経営道場の最終報告会(3月7日)。受講生は26歳から53歳までの幅広い年齢構成。

発行日 平成22年3月17日(水)
 発行 財団法人起業家支援財団
 事務局 〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80
 TEL 045-263-9222 FAX 045-263-9220
 www.shienzaidan.or.jp info@shienzaidan.or.jp
 発行責任者 小林孝雄 編集 治田友香

事務所を移転して半年が過ぎました。

平成21年度の財団活動は学生起業塾、経営道場の運営と、関係機関とのネットワークづくりに注力しました。

そして、平成22年度4期目をスタートさせることができました。

今回は平成21年度第四四半期、平成22年度第一四半期の報告をいたします。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

(副理事長:小林)

■「ビジネス感性を磨く経営道場'09」修了

将来の経営者候補者、経営を補佐する立場の役員の方など10社16名の受講生に参加いただいた経営道場は、3月7日(日)の最終報告会をもって修了となりました。朝9時から夕方7時まで、受講生は半年間にわたる成果を盛り込んだプレゼンテーションを行い、大島昭浩トータルコーディネーターがリードしながら質疑応答を行い、熱心に議論していただきました。その間に、当財団の松井利夫理事長による講話『創業者の心得～逃げるな、驕るな、甘えるな』を行いました。

情報サービス業、福祉用具レンタル・販売業、遊技業、水産物卸業、建設業、運送業など多彩な顔ぶれの受講生に参画いただき事務局としても大いに刺激を受けました。この出逢いが新規事業の創出につながったり、受講生間のネットワークが有機的なものとなることを事務局は期待しております。

■当財団の奨学生の活躍の一部をご紹介します

奨学生氏名	賞(主催者)
関山和秀(OB)	第9回バイオビジネスコンペ JAPAN 最優秀賞 [実行委員会]
岡崎雄太	NEXT ENTREPRENEUR 2009 AWARD (主催:株式会社ネクスト)にて優秀賞
豊田龍佑	「I-SHIN」(アジア学生起業家支援ファンド)ビジネスプランコンテスト(主催:アジア学生起業家支援ファンド)にて優秀賞
大木洵人	①国際ビジネスコンテスト Global Tic(後援:台湾政府)にて最優秀起業家賞と最優秀展示賞の2冠受賞(大会史上初) ②横浜ビジネスグランプリ2010(主催:財団法人横浜企業経営支援財団)にてアンダー22部門優秀賞(部門最高位賞)受賞
賀来直俊	①KBC BUSINESS CONTEST 優秀賞(主催:KBC実行委員会)
速水浩平	①グッドデザイン賞受賞(社会領域) 発電機 [発電床®] ②MM総研大賞2009 ③第5回かながわ“キラリ”チャレンジャー大賞
矢島里佳	①第6回キャンパスベンチャーグランプリ(主催:キャンパスベンチャーグランプリ東京実行委員会)にて特別賞 東京産業人クラブ賞受賞 ②平成21年第8回学生起業家選手権(主催:東京都、財団法人東京都中小企業振興公社)にて優秀賞(3組のうち)受賞

※経済産業省が発表した「平成20年度大学発ベンチャーに関する基礎調査報告書」において「光る大学発ベンチャー20選」に、スパイバー株式会社(関山さん)、株式会社音力発電(速水さん)が選出されました。全国の大学発ベンチャー1,809社の中から2社が選出されました。

■ 学生起業塾 実施報告

2009年11月～2010年3月までに学生起業塾を3回実施しました。リサイクル業界、保険業界に新たなビジネスモデルを持ち込んだ2社の事例、横浜を拠点に先駆的な若者就労事業を展開する事例など、多彩な分野で活躍されている講師のお話をうかがうことができました。

3月2日(火) 成果報告会では、松井理事長の講演の後、奨学生の岡崎雄太さん、木戸啓太さん、濱野勇介さんから1年間の活動報告があり、引き続き行われた懇談会では、80*80(はちまるはちまる。横浜から80キロ圏内の食材を80%以上使うというコンセプト)の料理を味わいながら懇親を深めました。

この会には、大北智良理事、原田恒敏監事、遠山悌二郎評議員、オブザーバーとして神奈川経済同友会の山本事務局次長、ETICの田中さんにもご参加いただきました。ありがとうございました。

<p>第14回 12月16日(水) 橋本真由美氏 〔ブックオフコーポレーション株式会社 取締役会長〕</p>	<p>橋本氏がブックオフコーポレーション(以下、ブックオフ)にパートとして就職してから同社の経営に携わるようになるまでの経緯と、経営者として、どのような危機に直面し、その危機をどのように克服してきたかが説明されました。ブックオフは社員とスタッフの“現場力”が利益を産み出しており、社員やスタッフの成長があるから会社の成長があると考えています。人が変わる瞬間に立ち会えることが喜びであり、財産であり、それゆえ人材は自らの手で育てることが大切であると説明されました。</p>
<p>第15回 1月19日(火) 岩瀬大輔氏 〔ライフネット生命保険株式会社 代表取締役副社長〕</p>	<p>岩瀬氏がライフネット生命保険を起業するに至った経緯が紹介されました。米国ハーバード大学に留学中に投資家と出会い、起業を促されます。さらに、現在のパートナーと引き合わされ、保険市場に参入することを決めます。投資家やパートナーとの出会いから、起業家には、「信頼や周囲が応援したくなる何か」が大切であると言います。また、大きく伸びるベンチャーの条件は、①大きな市場があること、②大きな非効率や矛盾があること、③解決できるソリューションを持っていることと説明されました。</p>
<p>第16回 3月2日(火) 岩本真実氏 〔株式会社 K2 インターナショナルジャパン Y-MAC 統括責任者〕</p>	<p>岩本氏が行っている若者支援事業について、こうした事業の背景となる若者の現状から、同事業に対する思いや個々の取り組みが紹介されました。若者たちが安心して生きられる社会を作りたいとの思いから、250円でおなかいっぱいのお食事を提供しようという250(にこまる)食堂事業を行っています。この食堂では、そのときに入手できる材料を使うことで、価格を抑えている等の工夫がなされています。慈善事業ではなく、事業として成立させることで若者を支援していきたいとの考えが述べられました。</p>
<p>松井利夫 当財団理事長</p>	<p>松井理事長からは、「次世代に語り継ぐベンチャースピリッツ」というテーマで、起業家には起業家精神(ベンチャースピリッツ)が大切であるとの説明がなされました。起業家の要件として、次の3つをあげられました。①挑戦する意欲とそれを支える精神力、②理論武装と実践能力、③人柄と人徳。事を起こすのは、理屈ではなく、情熱であるが、理論も必要であること。また、人徳とは、相手を思いやる気持ちであり、相手の成功を心から喜べる気持であると説明されました。最後には、「約束を守る」「隠し事をしない」「嘘をつかない」といったことが大切であると加えられました。</p>



第14回 ブックオフコーポレーションの橋本真由美取締役会長。この日は経営道場と合同で実施。



第15回 奨学生からのリクエストで実現したライフネット生命の岩瀬大輔副社長による講演。

第3期奨学生を決定しました

2010年4月からスタートする第3期奨学生35名の採用を決定しました。

奨学生および起業プランの概要は4月に当財団のWEBサイトでご紹介します。

応募者総数は55件(新規38件、継続17件)でした。6月には第4期生の募集を開始します。

事務局から

- 平成22年度第1回通常理事会・評議員会を3月23日にホテルキャメロットジャパンにて行い、平成21年度事業報告及び収支決算をご承認いただきました。
- 昨年11月に神奈川県公益認定等審議会に公益認定申請をし、現在審査中です。神奈川県では、公益認定されている法人は現在4件(横浜市芸術振興財団、厚木青年会議所、商連かながわ、かながわ健康財団)です。(全国では139件が認定されています。2010年2月末現在)
- 横浜市中区尾上町に事務所を移転したことから関内関外地区の活性化や社会起業家とのネットワークなど新しいコミュニケーションづくりが進み始めました。